

「教会の賛美を」

使徒 2:41-47

【1】神の力によって

ルカは使徒の働きにおいて聖霊とみことばによって生み出された教会の姿を生き生きと記しているが、41節には初代教会の驚くべき出来事が記されている。使徒ペテロが語ったことばを聞いて受け入れた人々がこの日3千人ほど仲間に加えられたとある。ここに福音宣教は聖霊の賜物であることを改めて確認させられるのである。

救いは神の力である。主イエスは弟子たちに「わたしの教会を建てます」(マタイ 16:18)と語られた。この主のことばのとおり、教会ははじめから終わりに至るまで、主イエスご自身のものである。このみことばの通り、キリストは贖いの御業を成し遂げられ、約束の聖霊を与えてくださったのである。そして、主のものとされた人々を日々支えてくださるのも主なる神ご自身なのである(使徒 2:47)。

【2】信仰の実践

使徒の働きには、みことばを受け入れ、救われた人々の集まりである教会の様子が記されている。ここに信仰の実践における基本的な要素を見ることができる。救われた人々はどのような生き方へと変えられていったのであろうか。救いは私たちの生き方そのものを変えるものでもある。信仰者の生き方はそのすべてにおいて一貫して行くのである。聖霊によって集められた人々の様子が42節には記されている。「彼らはいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた」のである。

① 教えを守ることに

彼らは何よりもまず、使徒たちの教えを守っていた。その教えとはイエス・キリストご自身の教えである。信仰者たちが何よりも大切にしたのはキリストのことばである。信仰者の生涯はこのことばによって生きる生涯である。ここに、みことばの確かさがある。

② 交わりについて

教会は神に招かれた人々の集まりである。聖霊によって集められた者たちはその始まりから「交わり」を持っていた。その具体的な暮らしぶりが44-45節には記録されている。そこに救われた者の実践の広がりを見ることができる。しかし、これは教会の制度として定められたものではない。あくまでも自発的なものである。交わりは制度ではなく、愛の表れである。この交わりのあり方を誤解されてしまうことがあるので、本来の交わりについて時に立ち止まり教えられなければならないであろう。人間が罪のゆえにまず失ったのは神との交わりである。それゆえに、キリストは神との交わりを回復し、すべての交わりをも回復してくださるのである。

③ パン裂きと祈りに

初代教会では現代の教会が行っている礼拝や聖餐式と食事会に区別がなかったようである。彼らにとっては交わりそのものが主の十字架を覚えるものであり、祈りと賛美のときでもあった。

主の力によって主ご自身が建てられた教会は主の力が現されていく。私たちの知恵や力で教会を発展させるようなものではないのである。私たちが救われ、教会に加えられたのはただ主の十字架の贖いのゆえである。聖霊によって主のものとされた人々は聖霊に導かれ、その生涯のすべての領域において主への賛美がささげられるのである。